

法人名 認定 NPO 法人森の ECHICA

事業計画書

事業名	吉田地域環境整備事業
枠の種類	ネーミング事業 (株)富士薬品ドラッグセイムス 環境保全支援事業)
1. 事業の目的	<p>秩父市吉田にある棕神社周辺の、整備がされず放棄された土地の環境整備を行い、人の往来を取り戻す。</p> <p>棕神社周辺には川があり、かつては川の反対側から橋をかけ歩いて往来が出来る道があり、お茶の栽培や耕作地として活用され、里山として保全されていた。しかし少子高齢化による過疎化が高まり、耕作放棄地や整備が行われず荒れた森になってしまっている。野鳥や野生の生き物が生息する藪も残しつつ、荒れた森を間伐し下草を刈り、見通しがよく安全に通れる道を作り、人々の往来を取り戻し、自然を身近に楽しめる活動場所にする。</p>
2. 事業で取り組みたい地域や社会の課題	<p>① 設立目的：「いろいろな命との共生」を理念に 2008 年母親達が森のようちえんを立ち上げた。不登校の親子の居場所作り「居場所かなりや」の開設をきっかけに、ニート・ひきこもり等で生きにくさを抱える青年期の若者の自立・就労支援も行っている。幼児期からの環境教育を実践し、SDGs の目標達成にも取り組み、持続可能な社会を担う人材を育成する活動を行う。</p> <p>② 活動の中で明らかとなった課題：秩父地域は豊かな自然が残っているが、その中で自然体験をして育つ子どもが減少してきている。豊かな自然が残っていても高齢化により整備されずに荒れ果てた土地が多くなっており、地域住民同士の世代間交流も減少し孤立化してきている。人間も自然の一部であるという環境観の欠如が昨今の様々な環境・社会問題の要因の 1 つであると考え。思うようにならない自然界の営みの中、のびのびと子育て親育ち出来る環境作りとそれを見守る地域社会作りが課題。</p> <p>③ 課題に取り組むことの重要性・必要性：荒れた土地を整備し、人が往来できるような道を作ることで、地域の人達の往来が可能となり、利便性や外に出て自然を楽しむ機会が増え精神的安定をもたらしたり、先が見通せず危険な場所が見通しのいい場所になることで安全性が保たれる。事業を発展させ、人の往来だけでなく、地域の人々が交流出来る場所として活用していけば、孤立せず誰もが生きやすい社会に一步近づける。</p>

3. 具体的な事業
内容

(1) 環境整備の為の技術力向上の為の講習会

第1回「チェーンソー・刈払機講習会」

第2・3・4回「間伐講習会」

第5回「薪作り講習会」

①主旨：初心者でも機械を使いこなし環境整備出来るようにするため

②時期：令和2年7月～11月

③対象者：団体職員、外部協力者、ボランティア、地域住民等

④場所：埼玉県秩父市下吉田 7114-3 周辺

⑤参加見込み人数：100名（20名×5回）

(2) 環境整備の為の調査

「道の再生」

「森の再生」

①主旨：環境整備の計画の為に、荒廃した土地を調査し、川へ続く道と森の再生計画をたてる

②時期：令和2年7月

③対象：秩父市下吉田 7114-3 周辺の土地と川

④方法：地図と現場を照合、計測、写真撮影

⑤結果とりまとめ：資料を作成し、どんな森にするか計画する（8月）

⑥協力予定者・団体等：空師若山卓、ボランティア

(3) 環境整備

①主旨：下草を刈り人が通れるように整備する。

②時期：令和2年7月～令和3年2月

③場所：秩父市下吉田 7114-3 周辺の土地と川

④参加見込み人数：のべ160名（20名×8回）

⑤団体職員、外部協力者、ボランティア、地域住民等

(4) 薪作り

①主旨：間伐した材木の有効活用

②時期：令和2年11月～令和3年2月

③場所：秩父市下吉田 7114-3 周辺の土地と川

④参加見込み人数：のべ80名（20名×4回）

⑤団体職員、外部協力者、ボランティア、地域住民等

4. 具体的な事業の実施計画

○事業のスケジュール

時期	
7月	チェーンソー・刈払機講習会、草刈り、調査
8月	間伐講習会、草刈り作業、森再生計画発表
9月	間伐講習会、草刈り作業、
10月	間伐講習会、草刈り作業
11月	間伐作業、草刈り作業、薪作り講習会
12月	間伐作業、草刈り作業、薪用製材作業
1月	間伐作業、草刈り作業、薪用製材作業
2月	間伐作業、草刈り作業、薪用製材作業

○ 広報計画について

SNS、ホームページにてボランティア協力者を随時募集。
秩父市社会福祉協議会にボランティア協力者の募集依頼。

5. 個々の事業の実施により達成したい成果の具体的な内容

(1) 環境整備の為の技術力向上の為の講習会

①第1回「チェーンソー・刈払機講習会」

参加者：大人20名（そのうち会員10名）

第2・3・4回「間伐講習会」

参加者：大人20名（そのうち会員10名）

第5回「薪作り講習会」

参加者：大人20名、子ども20名（そのうち会員10名）

②アンケート結果：技術力が身についたかどうか5段階評価

③成果：初心者がチェーンソーや刈払機を使って環境整備出来るようになる。初心者が間伐について学び、講師と共に実行できる
初心者が薪を作れるようになる

(2) 環境整備の為の調査

「道の再生」

「森の再生」

①成果：現状を記録し、具体的にどんな森にするか計画をたてられる

(3) 環境整備

①参加人数 大人20名、子ども20名（そのうち会員20名）

②成果 子どもの背丈からでも周りが見通せるように下草を刈る（下から15cm以内にする）。

(4) 薪作り

①参加人数 大人20名、子ども20名（そのうち会員20名）

②成果 薪200本（50本×4回）

<p>6. 事業の実施体制</p>	<p>①統括責任者 葎田昭子 ②連絡責任者 神結裕美 ③現場責任者 久米谷浩子、現場責任者補佐 大嶋八千代 ④経理担当者 神結裕美 ⑤広報担当者 瀬戸山いづみ</p>
<p>7. 来年度以降どのように事業を継続し発展させていくか</p>	<p>実施体制を当団体だけでなく、地域の住民や自治会と連携して活動し、一緒に共同する事で交流が深まり、継続的に事業を実施出来ると共に、地域に根ざした活動に発展させ地域に還元出来る。間伐した材木を加工し、薪や加工品を作って地域に還元できる仕組みを作る。整備した場所を地域の人々が交流出来るようにイベント等の企画・実施し事業を発展させる。</p>
<p>8. 今回の事業が他の団体、行政等が実施する同種の事業と比べて優れていること</p>	<p>① 自主性・自発性：たくさんの野鳥がさえずる林を守りながら、地域住民がより良く生きる場所へと再活性させる。 ② 多様性：生息するいろんな命とその暮らしと共存できるよう、完全に整備するのではなく、自然のままの場所も残し、間伐を行う。間伐した材木を有効利用し、エネルギーや暮らしを循環する社会に変換する。 ③ 柔軟性・先駆性：荒れ地の整備、間伐で伐採した材木を使って、薪、地域の子供も達が遊ぶ遊具や机・椅子に加工して利用し、自然の恩恵を余すことなく使い、循環出来る暮らしが出来地域社会のモデルケースとなる。 ④ 地域のコーディネート力：人が安心して往来出来る道を復活させ、地域の交流を広げる。</p>